

安全データシート(SDS)**高純度イソヘキサン**

作成日 2017年 3月 1日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称：高純度イソヘキサン

会社名：三協化学株式会社

住所：〒461-0011 愛知県名古屋市中区白壁4丁目68番地

電話番号：052-931-3111

FAX番号：052-931-0976

緊急連絡先：052-931-3111

担当部門：技術部 中村 喜一郎

推奨用途：工業用の溶剤、洗浄剤。

2. 危険有害性の要約**GHS分類**

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2 A
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器 全身毒性（単回曝露）	区分3（麻酔作用、気道刺激性）
	特定標的臓器 全身毒性（反復曝露）	区分1（中枢神経系、末梢神経系）
	吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2

絵表示又はシンボル**注意喚起語** 危険。**危険有害性情報** 引火性の高い液体及び蒸気。

皮膚刺激。強い眼刺激。

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

眠気又はめまいのおそれ。呼吸器への刺激のおそれ。

長期又は反復曝露による臓器（中枢神経系、末梢神経系）の障害。

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

水生生物に毒性。

注意書き 【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

防爆の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による

引火を防止すること。個人用保護具や換気装置を使用し、曝露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。環境への放出を避けること。

【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

吐かせないこと。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：無理して吐かせないこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚（又は毛髪）に付着した場合：直ちにすべての汚染された衣類を脱ぎ、多量の水と石鹸で洗うこと。

曝露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国／地域情報

3. 組成、成分情報

化学名又は一般名	イソヘキサン混合物	95.0 %以上
	ノルマルヘキサン	110-54-3 1.0 %未満（代表値 0.2 %）

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗浄すること。

皮膚刺激が生じた場合や気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合

水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合や気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。吐かせないこと。医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状

高濃度の曝露では、目、鼻、のどに刺激を引き起こす。眠気、頭痛、協調運動不能を引き起こす。

皮膚への長期の曝露では、脱脂性があり、乾燥、ひび、皮膚炎を引き起こす。

最も重要な兆候及び症状

めまい、頭痛。

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する特別注意事項

症状は遅れて発現することがあり、過剰に曝露したときは医学的な経過観察が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤：小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤。

大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤。

使ってはならない消火剤：棒状注水。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。加熱により容器が爆発するおそれがある。

引火性の高い液体及び蒸気である。

特有の消火方法

散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。

散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具（8. 曝露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。風上に留まる。

低地から離れる。密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。環境中に放出してはならない。

回収

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

封じ込め及び浄化方法と機材

危険でなければ漏れを止める。漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

電気設備及び工具は防爆型の物を使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。－禁煙。

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実に行う。

局所排気・全体換気

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行なう。

液の漏洩や蒸気の発散を極力防止する。

安全取扱注意事項

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。

眠気又はめまい、呼吸器の刺激、器官の損傷のおそれがあるので、本製品に接触、吸入、飲み込みをしてはならない。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

眼に入れないこと。接触、吸入又は飲み込まないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

保管場所の床は適当な傾斜をつけ、かつ、適当な溜升を設けること。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管条件

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。

冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。酸化剤から離して保管すること。

容器は直射日光や火気を避けること。

容器を密閉して換気の良いところで貯蔵すること。

指定数量1／5以上の量は危険物貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。施錠して貯蔵すること。

混触危険物質

『10. 安定性及び反応性』を参照。

容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 曝露防止及び保護措置

イソヘキサン混合物

管理濃度	設定されていない。
日本産衛学会	設定されていない。
ACGIH (2005年版)	TLV-TWA 500 ppm

ノルマルヘキサン

管理濃度	40 ppm
日本産衛学会 (2015年版)	40 ppm 140 mg/m ³
ACGIH (2010年版)	TLV-TWA 50 ppm

設備対策

防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

空気中の濃度を曝露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。

「火気厳禁」、「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。

安全管理のため状況に応じて、ガス検知器等を設置する。

保護具

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具（防毒マスク（有機ガス用）、高濃度の場合、送気マスク空気呼吸器、）を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護長靴、耐油性（不浸透性・静電気防止対策用）前掛け、防護服（静電気防止対策用）等保護具を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など 無色透明液体。

臭い 特有の臭気。

pH データなし。

融点・凝固点 -153.7℃

沸点、初留点及び沸騰範囲	62℃
引火点	< -20℃
爆発範囲	下限 1.2 vol%、上限 7.7 vol%
蒸気圧	2.3 kPa (20℃)
蒸気密度 (空気=1)	2.99
比重 (密度)	0.663 (15/4℃)
オクタノール/水分配係数	log Pow = 3.74
自然発火温度	280℃
蒸発速度 (酢酸ブチル=1)	データなし。
粘度	データなし。

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の手扱いにおいては安定である。流動、攪拌などにより、静電気が発生することがある。

危険有害反応可能性

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

空気や紫外線と接触すると、爆発性過酸化物を生成する事がある。

避けるべき条件

加熱。高温。

混触危険物質

強酸化剤。

危険有害な分解生成物

火災時の燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、などを生じる。

11. 有害性情報

急性毒性

ノルマルヘキサン

経口 ラット LD50 15800 mg/kg

吸入 ラット LC50 135.46 mg/L/4h

経皮 データなし。

イソヘキサン混合物

経口 ラット LD50 > 5000 mg/kg

吸入 データなし。

経皮 データなし。

総合判断 区分外

急性毒性（経皮）

ノルマルヘキサン

5mL/kg（換算値 3297mg/kg）でウサギに死亡がみられた〔PATTY（5th, 2001）との記述があるが、詳細な情報はなく、データ不足のため分類できないとした。

区分外

総合判断 区分外

急性毒性（吸入：蒸気）

ノルマルヘキサン

ラットのLC50値、48000ppm/4h〔環境省リスク評価第1巻（2002）〕、74000ppm/4h〔EHC 122（1991）〕に基づき、区分外とした。なお、1 bar=750 mmHgとして、蒸気圧160 mbar（20℃）〔ホンメル（1996）〕より飽和蒸気圧濃度は157895 ppmV、したがって気体の基準値により分類した。

区分外

総合判断 区分外

皮膚腐食性・刺激性

ノルマルヘキサン

ウサギの皮膚に半閉塞適用24時間後に軽度の刺激性（slight irritation）が認められた〔DFGOT vol. 14（2000）〕。ヒトでは閉塞適用1～5時間後に紅斑、5時間後に水疱形成も見られ、1.5 mLを前腕部皮膚に適用後ヒリヒリ感と灼熱感および一過性の紅斑を認めた〔DFGOT vol. 14（2000）〕。さらに、EU分類でXi、R38に分類されている（EU-Annex I（Access on July 2005））ことを考慮に入れ区分2とした。

区分2 皮膚刺激。

イソヘキサン混合物

環境省リスク評価第1巻（2002）、EHC 122（1993）、DFGOT vol. 14（2000）、PATTY（4th, 1994）およびATSDR（1999）のヒト曝露例で皮膚刺激性がみられたとの記述から、区分2とした。

区分2 皮膚刺激。

総合判断 区分2 皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

ノルマルヘキサン

ウサギの試験で、本物質を0.1mL点眼した結果、軽度の刺激性（Slight irritation）がみられた〔DFGOT vol. 14（2000）〕ことから区分2とした。

区分2 A 強い眼刺激。

イソヘキサン混合物

環境省リスク評価第1巻（2002）のヒト曝露例で眼への刺激性が認められるとの記述、およびDFGOT vol. 14

(2000)のウサギで軽度な刺激性が認められたとの記述から、区分 2A-2B とした。強い眼刺激 (区分 2 A)

区分 2 A 強い眼刺激。

総合判断 区分 2 A 強い眼刺激。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

ノルマルヘキサン

皮膚感作性：ボランティア 25 例を対象とした皮膚感作性試験 (Maximization test) で感作性が認められなかったとする陰性結果 (DFGOT vol.14 (2000) : WHO (World Health Organization) (1991) n-Hexane. IPCS - Environmental health criteria 122, WHO, Genf.) はあるが、本報告のみでは感作性がないこと確かな証拠とするには不十分であると判断し、分類できないとした。

区分外

総合判断 区分外

生殖細胞変異原性

ノルマルヘキサン

マウスの吸入曝露による優性致死試験 (生殖細胞 in vivo 経世代変異原性試験) で陰性 [DFGOT vol.14 (2000) 、 ATSDR (1999)]、マウスに吸入曝露による赤血球を用いる小核試験 [ATSDR (1999)]、マウスおよびラットに吸入曝露による骨髓細胞を用いる染色体異常試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) [DFGOT vol.4 (1992)] でいずれも陰性結果に基づき、区分外とした。なお、ラットの生殖細胞および骨髓細胞を用いた in vivo 染色体異常試験で陽性の報告もされているが、試験に方法論的欠陥があり染色体異常誘発の証拠とは見なせないと述べられている (DFGOT vol.14 (2000))。

また、in vitro 変異原性試験として、Ames 試験 [EHC 122 (1993)、ATSDR (1999)]、5178Y 細胞を用いたリンフォーマアッセイ [EHC 122 (1991)]、CHO 細胞を用いた染色体異常試験 [DFGOT vol.4 (1992)] などで陰性の報告がある。

区分外

総合判断 区分外

発がん性

ノルマルヘキサン

ラットおよびマウスに 2 年間吸入曝露による発がん性試験 (GLP 準拠) において、ラットでは雌雄どの部位にも腫瘍発生頻度の増加は見られなかった (DFGOT vol.14 (2000)) が、マウスの雌で肝細胞腫瘍 (主に腺腫) の発生頻度の有意な増加が認められた (DFGOT vol.14 (2000))。しかし、このデータのみでは分類に不十分であり、他の評価機関による既存分類もなく「分類できない」とした。

区分外

総合判断 区分外

生殖毒性

ノルマルヘキサン

ラットを用いた吸入曝露による二世世代生殖試験において、2世代とも親動物（F0 および F1）の性機能および生殖能に障害を起こさなかった（DFGOT vol.14（2000））が、ラットに 500～1500 ppm を妊娠期間中の吸入曝露により吸収胚率の増加（EHC 122（1991））、ラットに 5000 ppm を妊娠 6～17 日に吸入曝露により同腹生存仔数の用量依存的に有意な減少（ATSDR（1999））がそれぞれ母動物の体重増加抑制とともに認められたとの試験結果がある。また、EU フレーズは R62、MAC は C に区分している。以上のことから区分 2 とした。なお、一方でラットに 1000 ppm を妊娠 8～16 日の吸入曝露が吸収胚率の増加にはつながらなかったとする報告（EHC 122（1991））もある。

区分 2 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

イソヘキサン混合物

EHC 122（1993）、DFGOT vol.4（1992）、IRIS（Access on July 2005）および ATSDR（1999）にラットへの吸入曝露により精子形成阻害を伴う精巣の組織傷害が認められるとの記述があり、精巣に影響が認められる 1000 Ppm 曝露では、筋萎縮（DFGOT vol.4（1992））や体重減少（ATSDR（1999））も示されていることから、区分 2 とした。

区分 2 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

総合判断 区分 2 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

特定標的臓器・全身毒性（単回曝露）

ノルマルヘキサン

ヒトのボランティアを用いた吸入試験でめまい、職業曝露において傾眠が見られた報告（EHC 122（1991））があり、また、ラットまたはマウスを用いた吸入曝露試験で認められた症状として、運動失調、協調欠如、鎮静、麻酔の記載がある（EHC 122（1991）、PATTY（5th, 2001））ことから区分 3（麻酔作用）とした。一方、ヒトで吸入曝露後、咽喉または上気道の刺激を起こした、あるいは起こし得るとの記述（ACGIH（7th, 2001）、PATTY（5th, 2001））、かつ、マウスに吸入曝露により気道刺激が観察されたとの報告（PATTY（5th, 2001））に基づき区分 3（気道刺激性）とした。

区分 3 麻酔作用。気道刺激性。

イソヘキサン混合物

EHC 122（1993）、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT vol.4（1992）および PATTY（4th, 1994）のヒトで急性吸入毒性として、めまいや中枢神経系抑制などがみられるとの記述があるが、この影響は麻酔作用によると判断した。また、ACGIH（7th, 2001）および PATTY（4th, 1994）のヒトで吸入曝露により気道刺激性がみられたとの記述、および PATTY（4th, 1994）の麻酔作用があるとの記述から、区分 3 とした。

区分 3 麻酔作用。気道刺激性。

総合判断 区分 3 麻酔作用。気道刺激性。

特定標的臓器・全身毒性（反復曝露）

ノルマルヘキサン

本物質の職業曝露により多発性神経障害、末梢性神経障害、多発性神経炎の発症を示す数多くの報告がある（環境省リスク評価第1巻（2002）、EHC 122（1991）、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT vol. 14（2000）、PATTY（4th, 1994）、ATSDR（1999））。また、本物質の曝露を受けたヒトを対象とした疫学研究も繰り返し実施され、その多くが曝露とこれらの有害影響との関連を認める結果となっている（環境省リスク評価第1巻（2002）、産衛学会勧告（1993）、DFGOT vol. 14（2000）、ATSDR（1999））。以上のヒトの症例報告と疫学研究の結果に基づき区分1（神経系）とした。なお、動物試験ではラットに反復吸入または経口曝露による所見として、末梢神経障害、神経行動学的影響、脛骨神経の軸索変性、後肢脱力、神経伝達速度低下などが記録され（PATTY（5th, 2001）、EHC 122（1991）、DFGOT vol. 14（2000））、その多くがヒトの症状と共通している。

区分1 長期又は反復曝露による臓器（神経系）の障害。

イソヘキサン混合物

環境省リスク評価第1巻（2002）、EHC 122（1993）、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT vol. 14（2000）、PATTY（4th, 1994）IRIS（2005）、産衛学会勧告（1993）、ATSDR（1999）のヒト慢性曝露例で多発性神経障害（感覚神経および運動神経の障害）が認められるとの記述から、標的臓器は中枢神経系および末梢神経系と判断され区分1とした。

区分1 長期又は反復曝露による臓器（中枢神経系、末梢神経系）の障害。

総合判断 区分1 長期又は反復曝露による臓器（中枢神経系、末梢神経系）の障害。

吸引力呼吸器有害性

ノルマルヘキサン

炭化水素であって、かつ40°Cでの動粘性率が20.5mm²/s以下であることから、区分1とした。

区分1 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

イソヘキサン混合物

炭化水素であって、かつ40°Cでの動粘性率が20.5mm²/s以下であることから、区分1とした。

区分1 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

総合判断 区分1 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

ノルマルヘキサン

甲殻類 オオミジンコ LC₅₀ 3.88mg/L/48H

区分2 水生生物に毒性。

イソヘキサン混合物

LC₅₀ 1000mg/L/96H 以上。

区分2 水生生物に毒性。

総合判断 区分2 水生生物に毒性。

水生環境慢性有害性

ノルマルヘキサン

急速分解性があり（BODによる分解度：100%（既存化学物質安全性点検データ）、かつ生物蓄積性が低いと推定される（log Kow=3.9（PHYSPROP Database、2005））ことから、区分外とした。

区分外

総合判断 区分外

残留性・分解性

情報なし。

生体蓄積性

情報なし。

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制 海上規制情報 IMOの規定に従う。

UN No. : 1 2 0 8 Class : 3 Packing Group : II

航空規制情報 ICAOの規定に従う。

UN No. : 1 2 0 8 Class : 3 Packing Group : II

国内規制 陸上規制情報 消防法の規定に従う。

海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。

国連番号 : 1 2 0 8 クラス : 3 容器等級 : II

航空規制情報 航空法の規定に従う。

国連番号 : 1 2 0 8 クラス : 3 等級 : II

特別の安全対策

消防法の規定に従う。

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号 128

15. 適用法令

労働安全衛生法	第57条第1項	名称等を表示すべき有害物	該当せず。
	第57条第2項	名称等を通知すべき有害物	該当せず。
		有機溶剤中毒予防規則	該当せず。
		特定化学物質障害予防規則	該当せず。
		危険物	引火性の物（4-2）
労働基準法		疾病化学物質に該当せず。	
消防法		危険物 第四類 第一石油類 非水溶性液体	危険等級II
毒物劇物取締法			該当せず。
悪臭防止法			該当せず。
化審法		指定物質に該当せず。	
PRTTR法			該当せず。
船舶安全法		中引火性液体類。	
海洋汚染防止法	施行令	海洋汚染物質	: X類。

16. 参考文献

溶剤ポケットブック。

メルクインデックス。

溶剤ハンドブック。

危険防止救済便覧。

厚生労働省 職場の安全サイト GHSモデルSDS情報。

シグマアルドリッチ SDS情報。